

5. 宛先管理

5. 宛先管理

5.1 宛先管理の概要

宛先管理は、処理結果電文の出力パターンと処理方式（インタラクティブ、メール）の組み合わせに対応した宛先管理テーブルを使用し、入力端末、利用者コード、出力情報コードごとに指定した宛先に応じて、処理結果電文を帳票電文テーブルに格納する機能である。

NACCS では、処理結果電文の出力パターンとして、INQ 型、EXZ 型及び EXC 型の 3 種類がある。これらのパターンを宛管形式という。

通関業者が「輸入申告業務（IDC）」を行ったときの 3 種類の出力パターンの例を図 5-1-1 に示す。また、図 5-1-2 に、宛先管理処理の概要図を示す。

(注)WebNACCS処理方式のみを利用する利用者の、処理結果電文（帳票用）の印刷方法については、「操作説明書（WebNACCS編）_民間利用者向け」を参照すること。

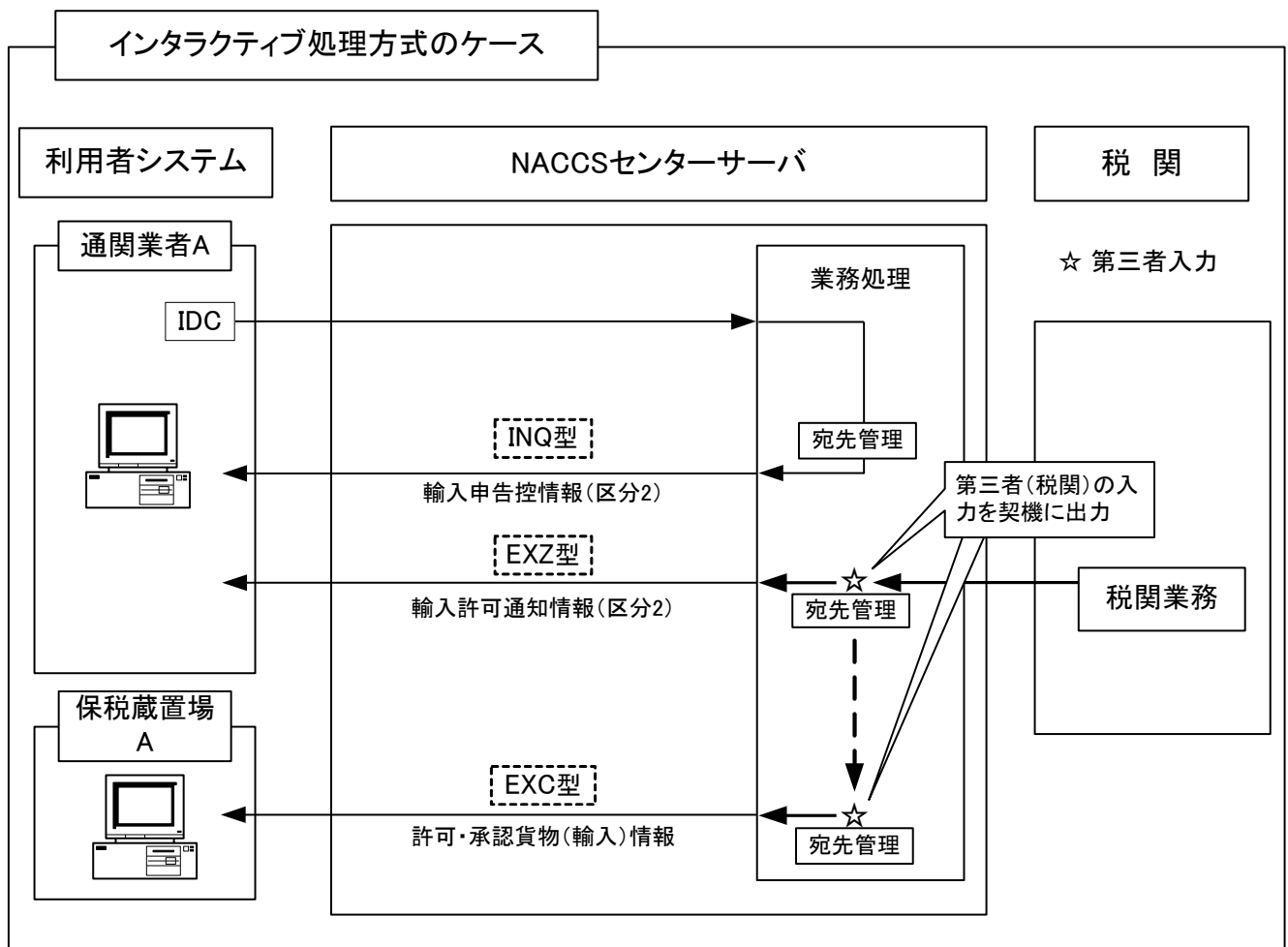


図5-1-1 処理結果電文の出力パターンの例

INQ型：処理結果電文（輸入申告控情報）が、処理要求電文の入力者宛（通関業者Aの利用者コンピュータ）に、直ちに出力される。

EXZ型：処理結果電文（輸入許可通知情報）が、処理要求電文の入力者宛（通関業者Aの利用者コンピュータ）に、第三者の入力（税関の審査終了業務）を契機に出力される。

EXC型：処理結果電文（許可・承認貨物（輸入）情報）が、処理要求電文の入力者（通関業者A）と異なる利用者宛（保税蔵置場Aの利用者コンピュータ）に、第三者の入力（税関の審査終了業務）を契機に出力される。

(注1) 利用者コンピュータとは、接続方式がPeer to Peer接続、またはルータ接続の場合は、「パソコン（論理端末名単位）」、ゲートウェイ接続（SMTP双方向）の場合は、「利用者側SMTPサーバ（メールアドレス単位）」を指す。

(注2) メール処理方式の場合、「利用者コンピュータ」を全て「受信用メールボックス」と読み替える。

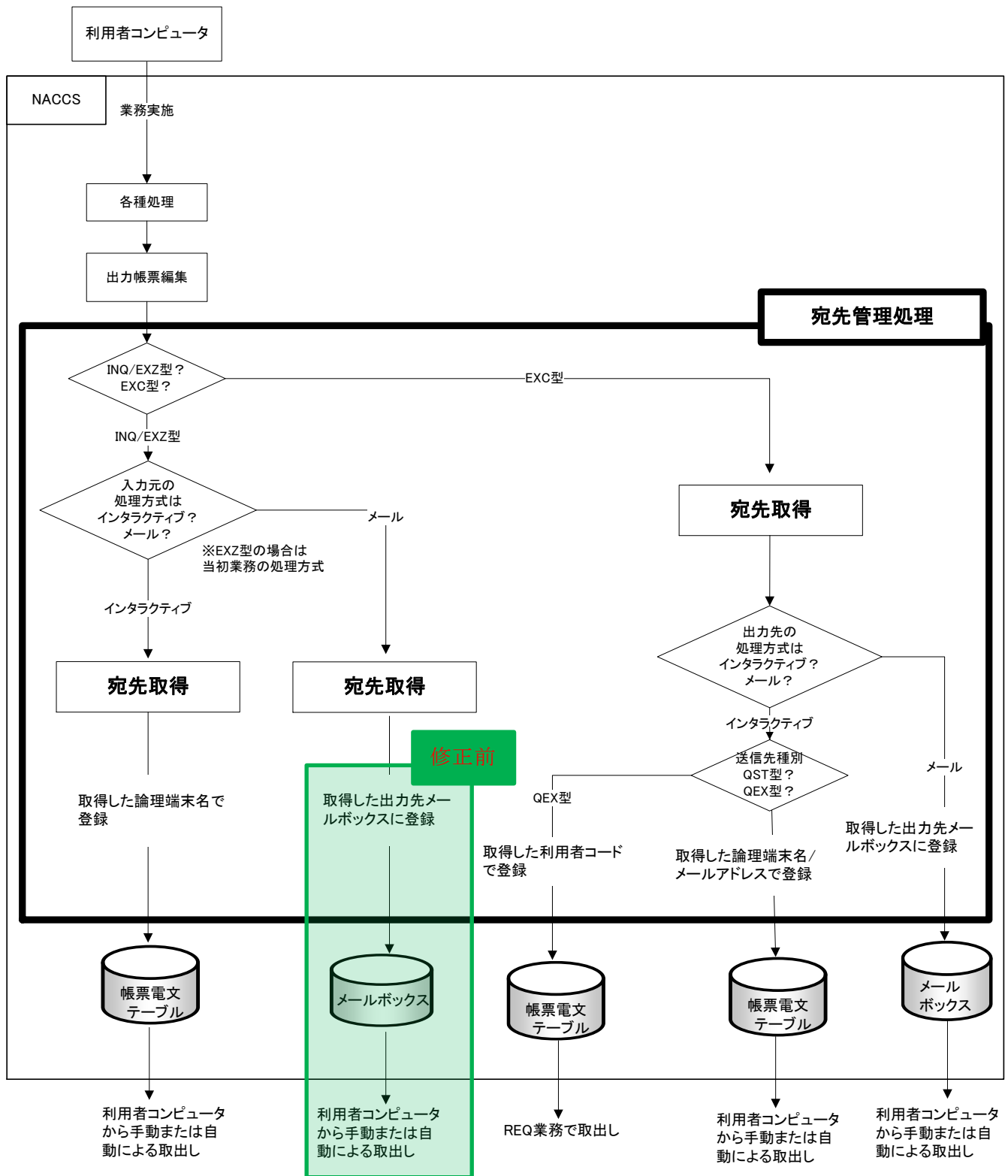


図 5-1-2 宛先管理処理の概要図

